

極度に使用箇所の限定される作品例部門に対し、耐熱性能を極限まで拡張したイメージの提案部門。こういう対照的な構図がはっきりと示される結果となった。提案部門では、耐熱性に加えて透明な現代デザインの特性が若い人々に魅力的なのか、入賞は学生諸氏に独占された。上位3案はほとんど甲乙つけ難い透明感に溢れた爽やかな提案である。金賞は詩的なプロジェクトで、イメージが美しい。作品例部門は使用場所がパターン化されてくる中、金賞のアイデアがひときわ他に抜きん出ている。ファイアライトは透明化が望まれる都市空間において今後その重要性は飛躍的に拡大してゆくことが期待される。このコンペティションを足がかりに明るく魅力的な都市の施設が増えることが望まれる。

提案部門は制限のある素材を用いた提案なので、発想の良さが決め手となる。同時に、ガラスの透明感や熱そのものをどのように表現するかで結果も左右される。金賞は全作品のなかで、最もシンプルな表現をとっていて、かつ詩情に溢れるものである。読むと細かい心くばりがみられて良かった。CGを駆使した案も多く見受けられたが、主張する点が弱いと選外となる。作品例部門では、ファイアライトがこれ程身近に使われているとは思っていなかった。使用例はいくつかに分類されたが床に用いられた例は金賞のみであった。必ずしも大きな面で使わなくても効果を発揮した事例や、建築ディテールにないような巧みな扱いが数多く見られ、設計者の知恵と、建材としての耐熱ガラスの良さを再認識した。

火災安全の研究と実務に関わっている立場で参加した。作品例部門は、現行の火災安全法規が設計者の自由な発想を如何に阻害しているか痛感。反面、この素材が透明で開放感のある空間の創造を可能にし、設計者の不満解消に役立ったことが確認できた。入賞作に大きな優劣はない。金賞は垂直部材のイメージが強いガラスを床に適応した柔軟性がリードした。銀賞はシースルーエレベーターに利用した努力、銅賞は空間に調和させた点を評価した。提案部門は若さが素材の可能性を進展させ、耐熱性と耐低温特性を十分に発揮させた。金、銀、銅は横一線であり、銀賞の都市イベントの装置と、佳作の民家の戸境の防火遮断帯へ適用した発想は、今後のこの材料の技術開発の一分野を示唆している。

作品例部門で同じ様な考え方の作例が重なるのは仕方がない。その中で、金賞は床として新鮮で楽しい。銀賞のエレベーター廻りは、見過ごしてきた空間を強い透明感を与えることで開放的にしている。銅賞はさりげないが、視点の暖かさが伝わってくる。他にも、この素材を使う事で明るさや好感を与えるものを多く見る事が出来た。この事はこの素材及び、その使用例が日常生活にうまく重なっていけることを表している様に思われる。提案部門はコンセプトアルな提案から実現可能なものまで幅広いものだった。しかしテクノロジーは時代とともに進化するが、生活にどうイメージさせ得るかも重要である。未来は美しく興味深い社会でなくてはならない、そんな視点からの提案が特に心に残っている。

(作品例部門) デザインの面でも、床に用いる意外性の面でも、その用い方のウィットという点でも群を抜いて金賞案が楽しい。法的にしようがないから使ったといったような、敗戦処理ピッチャー的な用法が多かったのにヘキキしたので、その分、さわやかで前向きで実験的な作品が好ましく思えた。(提案部門) 金、銀、銅賞はほとんどタッチの差で、逆転逆転のあげく、フローティング・コンタクトレンズの詩情が勝利をおさめた。鴨川上のガラス・シアターは映像と炎という、さわれないものとさわるとヤケドするものさかじめにガラスを介在させていると読めば、現代を批判的に貫く眼差が浮上する。

(新建築) 12月号に掲載されたもの部分抜粋です

NEG空間デザイン・コンペティションも第3回を迎え、286点の応募をいただきました。

主催者の一員として厚く御礼申し上げます。提案部門の入賞者の大半が建築学科の学生であることに驚くとともに、ファイアライトが若い方々に注目いただいている可能性を秘めた建築材料であると改めて自信を深めております。ファイアライトは乙種・甲種防火戸として開発されたものですが、今回の作品を拝見させていただきましたと私どもが考えもしなかった新しい用途にご使用いただいていることに感心いたしました。この建材の出現によって初めて可能となった空間構成も多くあるのではないかと意を強くしています。これからも新しい住居空間構成のため、より一層製品の特徴を引き出しただけならばと存する次第です。

## 伊東豊雄

(伊東豊雄建築設計事務所代表)



## 小倉善明

(日建設計常務取締役)



## 佐藤博臣

(鹿島技術研究所第五研究部主管研究員)



## 杉本貴志

(スーパーホテル代表)



## 竹山聖

(京都大学助教授)



## 戸谷文隆

(日本電気硝子取締役建材事業本部長)

